

平成 27 年 11 月 17 日



徳島大学ファブラボ「阿波人形浄瑠璃共創プロジェクト」について

徳島大学地域創生センターでは、フューチャーセンター『A. B A』の開設記念事業の一環として、同センター内に設置したファブラボ（FabLab）において、徳島県立阿波十郎兵衛屋敷、徳島市、阿波木偶をつくる「人形師」、地域の浄瑠璃人形遣いのみなさん、関連企業・組織等との共創、そして、徳島の持続と成長を支える地域文化の伝承/保存と先端技術による新文化化を基本理念に、3D プリンタ関連工学を活用した木偶の即時出力、浄瑠璃人形の所作を含めたアーカイブ、徳島市中心部、特に大学キャンパスでの阿波人形浄瑠璃劇場の実現、その一連からの作り手・演じ手の育成に向けたプロジェクトを開始します。

1. 概要

地域創生センターでは、9月24日に開設したフューチャーセンター内に設置しているファブラボ(FabLab)を使った新規事業として、徳島の未来を創る「阿波人形浄瑠璃共創プロジェクト」を、大学と市民との共創、先端技術応用、文化の担い手の育成、地域の持続と成長、を基本理念に開始します。

プロジェクトリーダーは徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部（工学部機械工学科）の浮田浩行講師。画像処理・画像計測の技術、人間文化情報学、未来デザインの3つの視点を融合させ、人形浄瑠璃の所作を含めたデジタルアーカイブ、それをを用いた人形遣いトレーニングシステムの開発、3Dプリンタによる木偶づくり、インスタント・パークとしての阿波人形浄瑠璃キャンパス劇場のプロトタイピングと社会実験に取り組みます。

(別紙参照)

お問い合わせ先

部局名 地域創生センター

責任者 センター長 吉田 敦也

担当者 社会貢献係長 林 雅彦

電話番号 088-656-9752

メールアドレス

chkoukenc@tokushima-u.ac.jp

FabLab 人形浄瑠璃プロジェクト（企画案）

プロジェクトの目的

徳島大学地域創生センターのファブラボでは、これまでに蓄積した研究資源と先端技術を用いて、徳島の伝統芸能である「阿波人形浄瑠璃」の保存と伝承と発展を目的としたプロジェクトを地域の方々と協力して進めていきます。このプロジェクトでは、人形の形や色、動き、また、人形遣いの動きを先端技術によって計測し、デジタルデータとして半永久的に保存する「デジタルアーカイブ」を行うとともに、そのデータを活用することで、3Dプリンタによる木偶人形の製作や人形遣いトレーニングシステムの開発を行い、また、それらによる人形浄瑠璃の小屋掛け（キャンパス劇場）と上演等を予定しています。

1. 人形浄瑠璃の所作を含めたデジタルアーカイブの構築

人形浄瑠璃に使用される木偶人形の形状や色、光沢等について、3Dスキャナやカメラを用いて計測し、デジタルデータとして保存・活用できるシステムの構築を目指します。特に、人形の頭（かしら）内部のからくりの機構も、データ化する予定です。また、浄瑠璃上演時における、人形遣いの動きと木偶人形の動きについても、モーションセンサー等を用いて記録するシステムについても検討します。これらのデータを用いることで、いわば「現代のからくり」を施した人形の製作や、インターネットを活用した仮想的な人形浄瑠璃の上演が可能になると考えられます。

○実施時期：平成27年11月～

2. デジタルアーカイブを用いた人形遣いトレーニングシステムの開発

人形遣いの名人の方の動きやそれに伴う木偶人形の動きをデジタルアーカイブし、そのデータを用いて、人形遣いの初学者が、従来よりも容易かつ客観的に、木偶人形の動かし方をトレーニングできるシステムを検討します。基本的には、初学者の方の動きも計測し、名人との動きの違いを分かりやすく示したり、人形遣いと木偶人形が連携した動きについて解析し、木偶人形が人間らしく見えるためにはどのように動かせばよいかという点について調べたりします。

○実施時期：平成28年度以降

3. 3Dプリンタによる木偶づくり（3Dプリンタを用いた人形浄瑠璃製作ワークショップ）

(1) ワークショップ：複数回の講座で構成（全6回を想定）

(2) 講師：地域創生センター「FabLabスタッフ」（徳島大学教員）

（ワークショップの1,2および6回目は、阿波木偶作家協会にも講師を依頼）

(3) 学生TA：「FabLab学生コンシェルジュ」として参加者の指導等にあたる

※TA=ティーチングアシスタント

(4) 対象：学生、一般

(5) 開講時期：平成28年度以降（1回あたり2時間程度）

(6) 講座の内容：①人形の仕組みを知ろう

②人形を計ってみよう

③人形の部品をモデリングしよう

④人形の部品をアSEMBルしよう

⑤人形を3Dプリンタで作ろう

⑥人形を組立てて動かしてみよう

4. インスタント・パークとしての阿波人形浄瑠璃キャンパス劇場のプロトタイプと社会実験

本事業の大きな特徴は、人形浄瑠璃のデジタルアーカイブや3Dプリンタによる木偶づくりなど、徳島大学の科学技術研究の取り組みを端緒に、学生や地域の若者が、地域の伝統文化を知り、触れ、興味を抱く機会を増やすことです。そのことから、阿波人形浄瑠璃の担い手の発掘、新魅力化、国際ブランド化につながることを期待しています。そのため、今後、関係各位の協力を依頼し、インスタント・パークとしての阿波人形浄瑠璃キャンパス劇場のプロトタイプと小屋掛けの社会実験を行う予定です。

○実施時期：平成28年以降（3Dプリンタによる木偶づくりの進行に併せて開催）